

『豊かな漁場への改善』の取り組み状況について

平成 22 年 12 月 22 日
農林水産部水産局水産課
漁業資源課

漁場改善方法の検討

三番瀬をより良い漁場に再生するため、「三番瀬漁場再生検討委員会」を開催して、漁業者の経験的知見やこれまでの調査で蓄積された科学的知見をもとに、「漁場特性マップ」を作成し、流れづくりなど、漁場再生手法の具体的な検討を進めてきました。

本年度は、三番瀬奥部漁場及びその周辺海域の海水交換の改善が期待される覆砂、作滯及びその組み合わせについてシミュレーションを実施し、その効果と影響を評価・検証しているところです。

これらの検討状況を踏まえ、今後の漁場改善策の実施に向けて、地元市、関係漁協などと協議を進めてまいります。

関連する取り組み

1 アサリ漁業対策

冬場の減耗が多いアサリの対策として、アサリ稚貝の保護試験を 12 月から開始しました。

2 ノリ養殖対策

ノリ養殖に関する情報提供を行うとともに、技術指導による生産工程の見直しを図りました。現在、21 年度に開発された高水温に強い新品種「ちばの輝き」の普及を進めています。

3 アオサ対策

漁場のモニタリングの結果、本年度はアオサの発生量が少なく、漁場への影響もみられなかったことから回収活動は実施していません。

なお、干潟環境の保全を進めるため、漁業者によるヒトデやツメタガイの回収活動を支援しています。

4 藻場の造成試験

20 年秋に移植したアマモは、冷夏であった 21 年には越夏しましたが、本年夏季には全てが枯死しました。

現在の三番瀬の環境ではアマモの越夏は難しく、通年繁茂のためには、毎年度、株を移植する必要があるなど、事業効率面で課題があることが再確認されました。